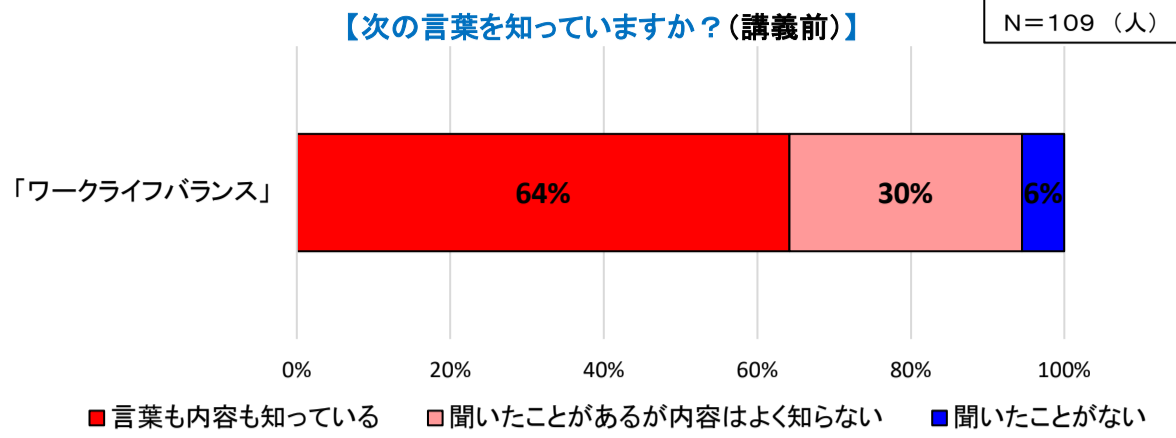
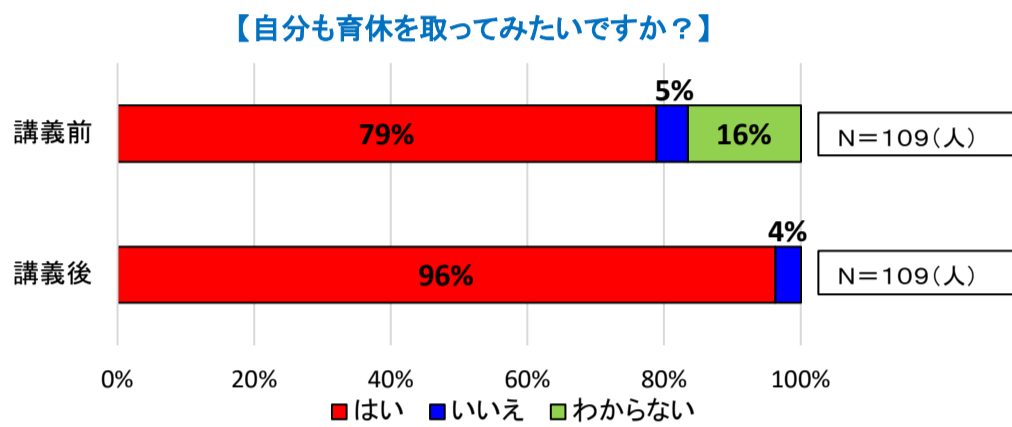


<2023年度 医と社会Ⅲ学生キャリア講習会 講義前後アンケート結果>



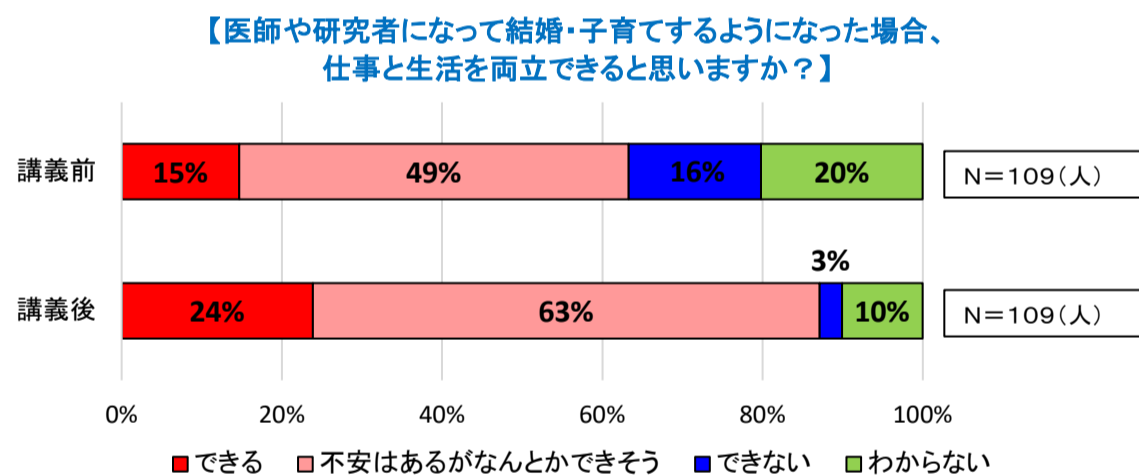
●2023年度の受講予定者121人(男性65人、女性56人(女性の割合46%))のうち、アンケート回答者は、講義前109人、講義後109人でした。「ワークライフバランス」という言葉を聞いたことがある割合は、アンケートを開始した2014年で50%程度でしたが、現在では90%以上が耳にしたことがあり、年々浸透しているといえます。

●現時点での将来の不安については、「不安がある」割合が講義前67%→講義後58%で講義前に比べると減少しています。また、講義後に「講義前と比べて不安が減った・不安がなくなった」と回答した割合は55%で、**学生の約半数は、不安を抱えながらも本講義で不安を軽減できた**ようです。将来に対する不安の内容(複数選択)で一番多いのは、「仕事と生活の両立」と「診療科の選択」が共に16%、次に「結婚・出産」と「キャリア形成」が共に15%、「勤務地」が13%で続きました。

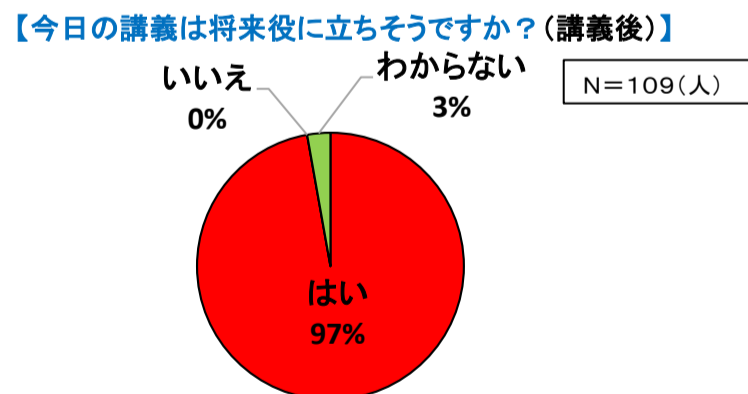
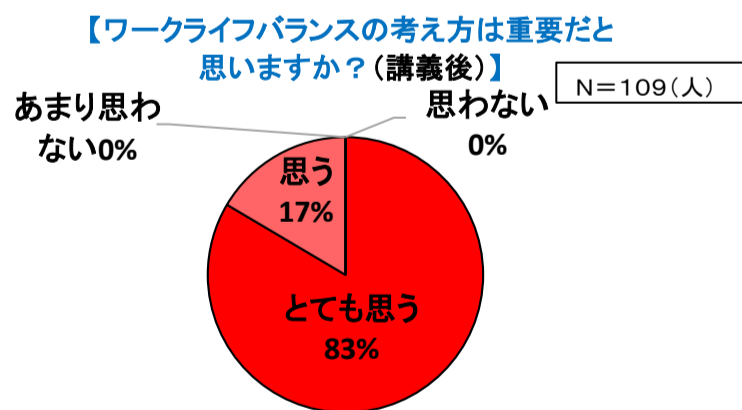


●「産休」「育休」の言葉はそれぞれ90%以上の割合で認知され、**出生時育児休業(産後パパ育休)**という言葉を知っている学生も80%以上と高い割合でした。講義後の「自分も育休を取ってみたい」学生の割合は**96%**(男性、女性共に96%)でした。講義を受ける前から、育休取得を考える学生が性別を問わず年々増えています。

●将来の進路を決定する時に重視するもの(3つまで選択)のランキングは、講義前:1位「仕事の内容」2位「雰囲気の良い科」3位「やりがい」、講義後:1位「仕事の内容」2位「雰囲気の良い科」3位「希望するライフスタイルが得られる」でした。講義後は、仕事と生活の両立を重視する学生が増えました。



●仕事と生活の両立については、講義の前後で「できる」前15%→後24%、「なんとかできそう」前49%→後63%へと増加して、**講義後の両立への自信は87%と高い割合に到達しました**。「できない」「わからない」の割合はいずれも講義後に減少し、また、「**今回の講義が将来役に立ちそうだ**」と答えた学生は**97%の過去最多**となり、講義の意義があったと感じました。



●学生からは以下のような感想がありました。

- ・グループワークの事例がとても身近で、真剣にディスカッションできた。
- ・仕事と私生活の両立のための支援が思った以上に充実している。
- ・様々なことを考えさせられた。特に不安症の私にとって「楽天的に考える」と言う言葉が心に響いた。
- ・様々なロールモデルの方々の講演を聴くことができ、将来に対する期待が高まった気がした。
- ・自分の将来についてじっくり考える機会はなかなかないので、この先の人生で行き詰まりそうになった時は、今回の授業のお話を思い出しながら様々な選択肢を柔軟に考えたい。
- ・ロールプレイをすることによって、より理解が深まったと思う。まだやりたいことは決まてはいないものの、将来のプランについての不安は減ったと感じる。
- ・ワークライフバランスが大切とは聞くが、実際に行動に移せるかは話が変わってくる。絶対に実行したい。
- ・まだまだ漠然としたことだが、逃げては行けない難しい内容だったと思う。早いうちに向き合うことも大切かなと考えた。
- ・将来のイメージが抱けず、何に不安を抱いているのかと漠然としていた今の状況で先生方のお話を聞き、将来の生活のイメージを具現化できたことで、少しでも未来へのキャリアや生活に対する希望が見えたような気がした。
- ・キャリア形成が困難になるくらいなら「結婚や出産を辞めておこう」と考えたりもしていたが、今回の講義で少し前向きになれた。